

◆ 【解説】 「『対話的な学び』を具現する授業デザイン例」について

相双教育事務所では域内の学校における授業改善を推進するために、「対話的な学び」に焦点を当て、授業展開の一例などを示した「『対話的な学び』を具現する授業デザイン例」を作成しました。授業デザイン例では、対話的な学びを引き出す教師の仕掛けや、対話を通して学びが深まるような授業の具体的な流れなどを紹介しています。

「対話的な学び」を具現する授業デザイン例（各教科）

美術

Art

「対話的な学び」を具現する授業デザイン例

- ▶ 学年 中学校 第2学年
- ▶ 題材 「ようこそ 浮世絵」

POINT
01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

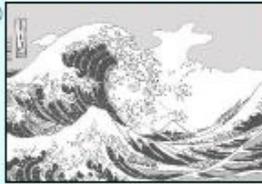
鑑賞は単に知識や定まった作品の価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくりだす学習である。本題材では、浮世絵を中心に3点程度の作品を選んで各自がミニ展覧会を企画し、ICT端末で紹介しながら解説をする活動を予定している。授業開始時、各自が調べたことや調べたことを基に、作品の魅力や鑑賞のポイントについて発表し、感想を交流する。

POINT
02

対話的な学びの様子

① 生徒Aが選んだ作品を見合い、感想を交流する。

生徒A「私は、富士山が描かれた作品を集めました。皆さんはどの作品に興味を持ちましたか？」



② 生徒B「この作品は、大きな富士山の堂々とした感じが伝わってきます。大きいはずの富士山が描かれています。大きいはずの富士山が描かれています。大きいはずの富士山が描かれています。」

③ 生徒C「この作品は、手前の波の迫力が伝わるように構図が描かれています。『富嶽三十六景』というシリーズ作品の場所や角度から描いた浮世絵があるので、この作品について感想を交流する。」

④ 生徒A「モネの『睡蓮の池』と比べて、この作品は、自宅に日本風の庭園があることが分かったので、さらに詳しく調べてみました。」

⑤ 生徒B「モネの『睡蓮の池』と比べて、この作品は、自宅に日本風の庭園があることが分かったので、さらに詳しく調べてみました。」

⑥ 生徒C「本当だ！前に鑑賞したゴッホの『オリーブ畑』と比べて、この作品は、自宅に日本風の庭園があることが分かったので、さらに詳しく調べてみました。」

⑦ 生徒A「ゴッホが浮世絵を写して描いた絵も教科書に載っていたよ。」



生徒B「19世紀後半のヨーロッパでは、新しい表現を求めた芸術家たちが日本の美術に注目し、大ブームになりました。それを『ジャポニスム』と言うそうです。」

教師「日本の美術と外国の美術のつながり、相違点や共通点を見つけるのも楽しいですね。」

POINT
03

学びが深まった生徒の姿

その後の振り返りでは、「日本の浮世絵が外国でもとても人気があり、高い評価を受けていることを知って驚いた。」「遠近法がどのように使われていたのか、その効果や印象が深まった。作品を見て説明を聞くだけでなく、自分も説明したりするを通して、美術作品や美術の歴史について学びが深まった。」

「対話的な学び」を充実させていくためにも、教師の仕掛けが重要になります。「POINT 01」では、本時において教師がどのような意図で仕掛けるのか（魅力的な教材・課題の設定、対話を活性化させるファシリテーションなど）について解説しています。

令和6年度版については、「授業者の視点（「解説『深い学び』を具現する授業デザイン例」を参照）」を踏まえて、授業デザイン例を作成しています。

令和7年度版については、「授業改善グランドデザイン（福島県教育委員会）」に掲載されている「『感じて動き出す』学びへ」の「課題克服に向けた授業改善3つのポイント」である「1 学び出す」「2 学び合う」「3 学びとる」を踏まえて、授業デザイン例を作成しています。3つのポイントの詳細は、「令和8年度相双教育アピール（授業づくり編）」、または「『学びの変革』授業デザイン（福島県教育委員会）」をご覧ください。

「授業改善グランドデザイン」との関連
生徒の発言をつなぎ、集団で学び合える授業づくりを行うことが大切である。それぞれの鑑賞の視点について価値付けたり、他の生徒に問いかけたりすることで、学び合いにつなげる。

「POINT 03」では「対話的な学び」を通して、集団や個人の学びがどのように深まっていったのかについて記載しています。